

- A: とても良い
- B: まあまあ良い
- C: 普通
- D: 良くない(要検討)

1. 本園の目指す幼児像

- ・遊びを通した総合的な活動の中で教師や友達との充実な関わりを持ちながら、心情・意欲・態度を育てる
- ・自然と豊かにかかわる体験を通し、考えたり言葉を伝え合いながら豊かな感性と人間関係の構築をはかる

2. 本年度の重点的に取り組む目標 ・ ・ 表内縦書き赤字

3. 評価項目の達成および取り組み状況

重点目標	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント	
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果結果		総括評価
① 幼児が意欲的に遊びを進めるための環境の構成	幼児期の発達や幼児の学びを踏まえた教材を工夫して環境を構成する	4	日頃の保育から自分で考えたり想像力が膨らむ様な保育計画と実践を積極的に取り入れる	2.5	4	遊びの中で自分のイメージを友達に話したり共有して遊ぶようになってきた	2.6	C	長期的な遊びとして「おにぎりやさん」を展開しているクラスがあった。フェルトで おにぎりや中身の具材を準備すると自然とお店やさんと、お客さんに分かれて遊ぶようになった。遊びが盛り上がってくると子どもたちとレジを作ったり、お金を作ったりした。また、子どもたちから「メニュー表があるとわかりやすい！」と声があがり準備するなど長期的な遊びへとつながった。別のクラスでは給食で食べたぶどうの種から話題が広がり「種」への興味が深まっていった。「種集め」がブームになり透明の袋に小分けし、何の種かわかる様に展示すると、更に興味が広がり子どもから保護者へと伝わり協力してくださるようになった。評価が、Cとなった理由として準備はできたが「タイミングよく提示することができなかった」「遊びが膨らむまでは至らなかった」といった意見があった。
		3	幼児の実態に合わせて遊びが膨らむ様な準備を計画的に実行する		3	環境として置かれたものからイメージを広げ、自分で遊びを作り出したり繰り返し遊ぶようになった			
		2	幼児が必要と感じた時にタイミングよく教材や遊具などの提示をする		2	興味を持ったものを自ら選んで遊びに取り入れるようになった			
		1	幼児の遊びや興味・関心に応じた教材、素材、遊具などを準備する		1	環境としておいてあるもの(教材、素材、遊具など)に興味を示し触れたり試したりするようになった			
② 保育の育ちに合わせた段階的な	幼児の成長や発達に合わせ環境を整え生活に活かす取り組み	4	幼児の主体性が育つように保育を工夫するようになったりクラス内の課題に気づきその課題に子どもたちと一緒に取り組むようになった	3	4	遊びを通して学んだことを生活の中で活かす子が増え、それを真似する子も出てきたりし、良い循環が生まれた	3	B	年齢に応じて、スプーンやフォークから「お箸」を使って食事が出来るように段階的に保育を行った。満3歳児・年少組では、スプーンやフォークを上手に使えるように手先を動かすような遊び(糸通しや洗濯ばさみ遊び、ちぎり絵など)を多く取り入れ、柔軟性を養い逆手持ちから下手持ちに移行できた。年中組では大豆や小豆などお箸を使っての遊びを取り入れ興味を促した。お箸を使う子が増え年長組ではほとんどの子が使えるようになった。椅子を5脚並べて片付けられる工夫として、シールを5つ貼り、分かりやすくしたり、ユニバーサルデザインを取り入れたりし、子どもたちが数を意識し分かりやすくした。また、不要なイラストがないかなども教室を見直すと同時に気持ちの安定が図れるよう園内に木の温もりが感じられる椅子やテーブル、本棚などを増やした。
		3	幼児が生活する中で成長してきたことに着目し、それに応じた声掛けや取り組みを考え指導するようになった(例:フォーク⇒箸・椅子を直す⇒数を決めて直すなど)		3	できることが増え、自信を持つ子が増えてきた			
		2	学期毎に環境を見直し、不必要になったイラストや掲示物を外したり今の発達に合わせたものに替えたりする		2	大体の子に気持ちの落ち着きが感じられる様になり、新しい環境に注目するようになった			
		1	室内やトイレなど幼児が安心感を持ち、生活できる環境づくりを行う		1	自分の居場所を見つけたり、トイレを怖がらずに行けるようになった			
③ 持し職した員方個々の役割とを責任に	教職員集団として協働できる組織作りの体制	1	職員同士が信頼しあい、積極的な意見を交わしあえるようになった	2.8	1	自園の愛着心が深まり、保育が楽しくなった	2.8	B	歯められた期日や約束事、組織内でのルールはきちんと守ることができたが“職員同士での気持ちの汲み取りがもう少し出来ると良かった”“自分の係ではない園全体のことに対して少し消極的だったかもしれない”という意見もあがった。しかし、明るい挨拶やたわいもない会話を通し、良い関係性は築けたと実感している。このような人間関係は地域の方や保護者の方にも伝わり明るく朗らかに対応できたのではないかと思う。今後も保育を互いに語り合えることができ、悩みや相談が気軽にできる関係性を大切にしていきたい。保育への楽しさややりがいについても実感している職員が多かったのも成果として感じている。
		1	役割や課せられた業務内容の中で自己の発想を膨らませ、人に対する気持ちの汲み取りやその準備ができるようになった		1	教職員同士、保護者から感謝されることが増え、やる気や意欲、自信につながるが増えた			
		1	組織内で決められた期日や約束ごとは守るようにする		1	職員間で信頼関係が芽生え、自分自身にも達成感を得られるようになった			
		1	挨拶や日々の何気ない会話等を行い、話しやすい雰囲気づくりをする		1	職場の雰囲気明るくなり年齢の差に関係なく相談できる人ができた			

○ 総合的な評価結果

評価	理由
B	今年度の自己評価の結果から、子どもたちが主体となり遊びを広げられるような環境の工夫を教師がよく考え、実行するようになったことがわかった。また、自発的に遊びの展開ができるように観察をよくし、必要のない言葉かけや行動を見直し「じっくり待つ」ということが課題としてあげられる。職員同士の連携では皆が元気に挨拶や会話を交わし、良い雰囲気での教育活動を行うことができた。自分の受け持ちだけではなく園全体の事にも少し皆が目を向けていくことが大切だと感じた。保育を互いに語り合うことができる関係性を今後も大切にしていきながら皆で連携を深め子どもの育ちにつなげていきたい。

○ 今後、取り組む重点的課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	聞く力を育む	子どもの「聞く力」を育て相手の話を最後まで聞けるようにする
2	環境の再構成の工夫	子どもの興味や発想が膨らみ遊び込めるようにする
3	地域との連携	地域の方との交流を持ち豊かな心やつながる力を育む(地域の方を招き昔遊びや伝承遊びを行う活動等)

○ 学校関係者評価委員会の評価 委員会実施日 令和 8年 3月 4日

幼小連携の取り組みの中で子どもたちが自ら考え、行動し、振り返るといった一連の流れを大切にされていることがよく伝わりました。先生方が一人一人の気づきを丁寧に拾い上げ、じっくりと見守ってくださることで子どもたちが遊びを楽しみながら自然と「もっとやりたい」という向上心に繋がっている姿がとても印象的でした。小学校や地域とのつながりがこれからも子どもたちの健やかな成長を支える素晴らしい環境となることを願い応援しています。

さいごに…職員間の対話が活発でお互いの保育を高め合う姿勢が素晴らしいと感じました。先生方自身が楽しさとやりがいを実感されていることが園全体の質の高い保育という実りにつながっていると確信いたしました。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員